

生き方・いろいろ・ゆたかな人生

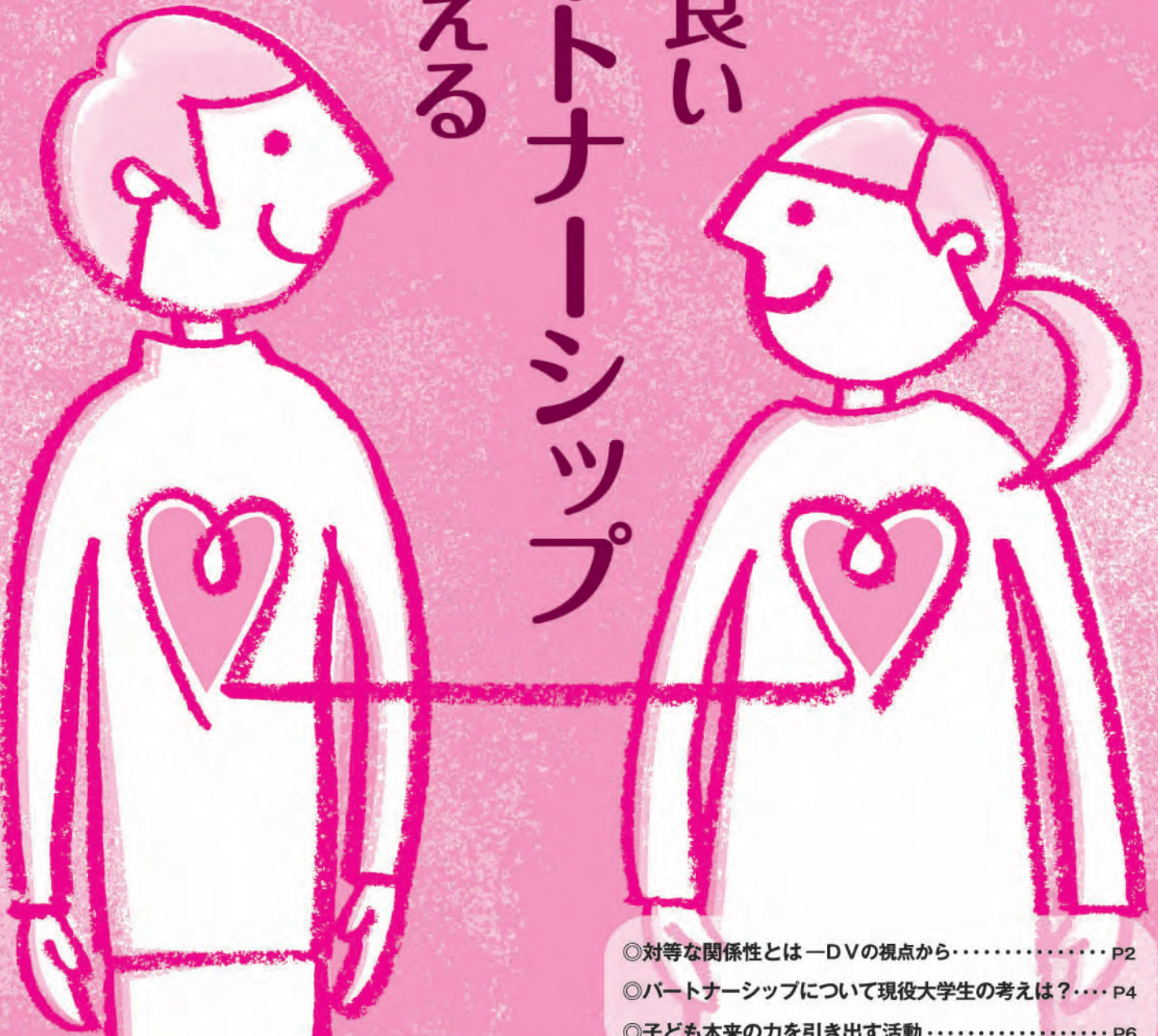
まなこ



93
2015 Mar.



より良い
パートナーシップ
を考える



- ◎対等な関係性とは—DVの視点から…………… P2
- ◎パートナーシップについて現役大学生の考えは? …… P4
- ◎子ども本来の力を引き出す活動…………… P6

特集 より良いパートナーシップを考える

パートナーとより良い関係を築くにはどうしたらいいのでしょうか。頭在化しにくいDVやデートDVを通して、パートナーシップについて考えてみませんか。

対等な関係性とはーDVの視点から

●現在、DVやデートDVが増えていると言われています。両者の違いと現況を教えてください。

本来、人は男女間においても、大人と子ども、親と子、先生と生徒の間であっても、対等な関係にあると思います。しかし、その対等な関係が築けていないのが現状だと感じています。その最たるものがDVではないでしょうか。

婚姻関係にある二者間で起こる暴力をDV、恋人同士間で起こるのがデートDVです。内閣府の発表によると、命の危険を感じるほどのDVにあっているのは20人に1人と言われています。昔は夫婦間で暴力がふるわれていても、警察は介入しませんでした。2001年にDV防止法ができ、結果としてその実態が顕在化するようになりました。

デートDVも同じで、今に始まったことではないとらえています。ただ、こ

ちらはようやく問題としてとらえられるようになったばかりで、まだ法的な規制がないため、相談や支援体制が整っていません。これから行政なども協力してしっかり支援していく必要があると感じています。

私たちが横浜市とともに行ったデートDVについての意識実態調査では、「交際経験がある」と答えた高校生、大学生のうち「被害にあった」と答えた人は35%でした。これは3人に1人の計算になり、潜在的にかなりの確率でデートDVが起きている可能性を示しています。

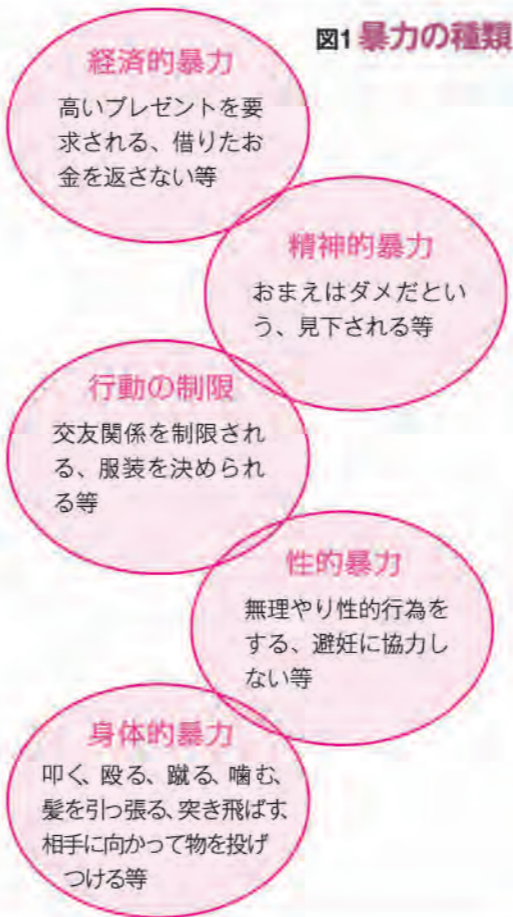
暴力には、身体的暴力だけでなく、性的行為を強いられるなどの性的暴力、自分以外の異性と話してはいけない、メールを読んだらすぐに返信を要求するなどの行動の制限などがあります(図1暴力の種類)。加害者側も被害者側も、それ

がデートDVであると認識しないで行われているケースも多くあるようです。

●どのようにして、デートDVは起ころのでしょうか

加害者も最初から暴力をふるうわけではありません。最初は「毎日報告しあ

図1 暴力の種類



う」という約束から始まったりします。そうして「返事が遅い」「昨日は報告がなかった」など、束縛がきつくなってきたり、やがて「なんて言う事が聞けないんだ」と殴られるなど、事態がエスカレートしていきます(図2DVのサイクル)。この過程で、徐々に「自分が悪い」と思い込まれていきます。それは、暴力は「お前が悪い」というメッセージを伝える手段でもあるからです。

また、デートDVやDVが顕在化しない理由の一つに、親しい関係の中で起こっているということがあげられます。もし、赤の他人から暴力をふるわれたら、誰もが良くないことだと思います。しかし、恋人から「二人にとって大切なことなのに、お前がわかっていないから殴つ

た」と言われると、「自分が悪い」と思ってしまうことがあるのです。親しい人からふるわれる暴力ほど顕在化しにくいのです。同じことは親から子への虐待という形でも起きていると思います。

●被害者が周りにいたら、どうしたらよいでしょうか

デートDVの相談で多いのは「どうしたら別れずにすむでしょうか?」という内容です。「彼と別れたい」という相談は実はあまりないのです。

別れられない理由はさまざまです。「相手が自分であることをわかってくれる」「好きな時もいっぱいある」と感じたり、相手とつきあうために友達つきあいをやめ、進路を変えたりとたくさんのものを失ってきたため、「この人を失ったら、これまで失ってきたものはどうなる?」と、無意識に天秤にかけてしまうこともあるようです。そこまでつくした相手を失うのも怖い、と感じてしまうのも要因のひとつです。

そうした背景もわからず、周囲の人は「なぜ、別れられないの?」と言いがちですが、その言葉は「別れられないあなたが悪い」という非難にもなっています。それが続くと、被害者が「自分の気持ちは誰にもわかってもらえない」と周りの人から孤立してしまつていきます。

ですから、もし身近な人が被害を受けていることを知ったら、とにかく話を聴いてください。本人の気持ちをそのまま受けとめることが一番の力になります。そして「あなたは悪くない」「わたしにとつて、あなたはとても大切な人だよ」「助けてもらっていいんだよ」ということを伝えてください。残念ながら人が人を変えることはできません。被害者が「自分は大切な存在なんだ」という自尊心を取り戻せた時、その人本来の力を取り戻せると感じています。

●では、本来のパートナーシップとはどのようなものでしょうか

自分の気持ちも大切にしながら、相手の気持ちも受けとめられる関係です。それは、対等な関係の上に築かれるものであり、お互いを大切にしようパートナーシップだと考えています。その反対にあるのが、どちらかが上でどちらかが下という対等ではない関係です。その関係の間で起こるのが暴力です。暴力をふるい、ふるわれる関係です。

どのような理由があったとしても、暴力をふるわれてもいい人はいません。しかし社会には、それとは反対のメッセージがあふれています。大人は子どもに「あなたを愛したのだから、こういうことをされてもしかたがない」「いじめられないために、自分からあいさつをしな

図2 DVのサイクル



阿部真紀さん

認定特定非営利活動法人エンパワメントかながわ理事長、上智大学文学部卒業、臨床心理学専攻、1999年よりCAP(子どもの暴力防止)スキャンリストとして活動、2004年エンパワメントかながわの設立にかかわり、2011年より現職

エンパワメントかながわ
神奈川県を中心に、一人ひとりが尊厳をもって生きることのできる社会の形成のため、デートDV予防、子ども護身法プログラム(すきっぷ)、教職員、保護者、若者向けに暴力防止のワークショップなどさまざまな人権啓発プログラムを提供している。

デートDV無料相談電話
0120-51-4477

火曜日18時~21時
土曜日14時~18時 (年末年始を除く)

<http://adv110.org>

「DV防止法」2000年に配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律として公布、2004年に一部改正、婚姻関係がなくとも同居する交際相手からの暴力も法の適用対象とされることとなる

「取材文」丸山麻帆 詩水淳子
私たちは社会にあるこのような根拠もなく自尊心を傷つけていくメッセージをなくし、「二人ひとりが大切な存在である」ということを活動の中で伝え続けていきたいと考えています。

そうしたメッセージを社会から毎日受けとっている子どもたちは、自分の身に何かあった時に「ひどいことをされたのは自分のせいだ」と思うようになり、デートDVの場合でもその考えをあてはめてしまいます。

(図表出典) 図1(暴力の種類)、図2(DVのサイクル)ともに「最近気になる...まわりに起きてない?」認定特定非営利活動法人エンパワメントかながわ発行

パートナーシップについて現役大学生の考えは？

相手とより良い関係を築くために、若い世代はどうとらえ、何を心がけているのでしょうか。昨年11月に武蔵野大学で開催されたデートDV出前講座「その恋本当に大丈夫？〜身近な問題としてデートDVを考える」を受講した、武蔵野大学の1年生8人に話を聞きました。

● 講座を受ける以前から「デートDV」という言葉を知っていた方は8人中3人ということですが、講座を受けての感想を教えてください。

白川さん DVは耳にしてきましたが、デートDVはDVと何が違うのかわかりませんでした。恋人間でも暴力があるというのは予想はついていましたが、女子で5人中1人がデートDVの経験者という話を聞いて、想像以上に多いと驚きました。好きな人から暴力を受けるなんておかしいです。

小林さん 殴る蹴るだけが暴力と思っていましたが、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力、精神的暴力、デジタル暴力など、暴力にもいろいろな種類があることに驚きました。自分が暴力ではないと思っていても、自分が暴力に入るとしたら知らないうちに加害者になることがあるかもしれません。

瀧戸さん これまで友達から交際相手について相談を受けてきたときに何気なく「大丈夫だよ」と答えていたことが、もしかしてデートDVだったんじゃないかと振り返りました。講座を聞いて身近な問題ではないでしょうか。

小林さん 相手と対等に思わずに自分が優位に立ちたいという意識や、逆らわれたくない、常に言うことを聞かせたい、という幼稚さが原因だと思っています。

高橋さん 好きという気持ちが高まりすぎて、相手に依存するようになってデートDVにつながるかもしれません。尊敬しあって、互いの自由を奪わないようにすれば起こらないはず。



武蔵野大学にて取材。大学1年生のフレッシュな意見がどんどん飛び出してきました

題だと、驚きと怖さを感じました。富樫さん デートDVについて知らない、その状態にあっても異常に気づけず自分さえ我慢すればいいんだと思ってしまうんだな。だからデートDVについて学べてよかったです。

● SNSなどインターネット上の交流サイトを使った「デジタル暴力」という新しい暴力が生まれていると講座にありました。三鷹のストーカー殺人事件ではリベンジボルトがあったそうですが、皆さんご存知でしたか

寺山さん 私は知りませんでした。(他の参加者も知らない、と首をふる)

● では、聞いてどう思いますか？ また、皆さんが実際にネット上で見た経験したことはありませんか

白井さん LINEやツイッターでつきあっている相手とのキス画像をアイコンにしている友達がいるんですが、見ている方が恥ずかしくなっています。星野さん ツイッターに「今日彼女とどこへ行った」という画像をよく載せている友達もいます。講座を聞くまでは、聞いてどう思いますか？

相手からの支配があるかどうかの CHECK LIST

目に見えない支配や権力がある関係かどうかをチェックしてみましょう。チェックリストにいくつかあてはまる場合は、力の差があり、相手からコントロールされている関係の可能性があります。

- パートナーの言うことは絶対
- 自分の希望をパートナーに伝えるのはとてもエネルギーがいる
- パートナーが帰ってくると緊張する
- パートナーを恐れている
- パートナーがいる前で電話をしたくない
- パートナーを待たせることはできないと思っている
- 自分がどう感じるかよりもパートナーが怒らないかが基準になっている
- 予定より遅く帰るなんてできないと思っている
- パートナーの言動に意見できないと思っている
- たとえ間違っていると思って、パートナーに同調しなくてはならない
- パートナーに自分の本音は絶対に言えない
- パートナーが怒りだすと、なんとなくだめようとしてしまう
- パートナーが機嫌が良い状態であるためにはどんなことでもするとする
- どんなに自分が楽しんでいてもパートナーの機嫌が悪くなるともう楽しむことはできない
- パートナーのセックスの要求は断れないと感じている
- 自分のほしいものでもパートナーが良い顔をしなければ買えない
- 子どもがパートナーの気に入らないことをするとすぐおこせる
- パートナーについてうそがばれるのが怖くてしょうがない

小林さん 不特定多数の人が目にできる場に、つきあっている相手の画像を掲載するのは理解できないです。

高橋さん 昔つきあっていた相手から頼まれて、ツイッターにツーショットを載せてしまったことがあります。自分は恥ずかしいから嫌だったんですが、自分もしっかり持たなきゃなと思いました。

● 若いカップルの間で、なぜデートDVが起こると思いますか

寺山さん 知識がないことで、支配する側、される側にいることに気づけないことがあるのではないのでしょうか。まずはデートDVについての知識を持つことが大切だと思います。

● 最後に、恋人に限らず、他の人とのつきあいで心がけていること、そしてどうすれば素敵なパートナーシップを築けると考えているのかを教えてください

白井さん 会話の中で相づちをうつこと、大切さを心がけています。「あなたの話を聞いていますよ、考えているよ」と伝えるので目上の人にも友達にも心がけて実践しています。その上で自分の意見も伝えるようにしています。

出席者 ● 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科1年生(50音順)



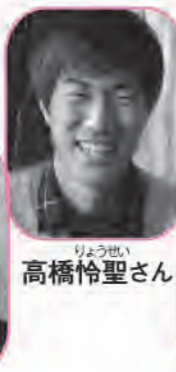
小林太一さん



白井那知さん



白川遥菜さん



高橋怜聖さん



瀧戸楓さん



寺山明香さん



富樫瑠衣さん



星野雄大さん

※1 SNS(フェイスブック、Twitter、LINEなど)で交際相手の画像を公開する

※2 三鷹ストーカー事件 2013年に三鷹市で発生した殺人事件、女子高生が元交際相手に殺害された

※3 リベンジボルト 元交際相手の性的な画像などをSNS上に流出させる嫌がらせ行為で犯罪になりうることもある

※4 LINEライン 無料でメッセージ交換や音声通話ができるサービス

※5 ツイッター(Twitter) 140文字以内の短文や画像をネット上に投稿できる情報サービス

出典：NPO法人レジリエンス

子ども本来の力を引き出す活動

市内のいくつかの小学校では、毎年、子どもがあらゆる種類の暴力から自分の心とからだを守る方法を学ぶCAP(キャップ)プログラムが実施されています。第一、第二小学校などで活動している「青い空」の理事、西村説子さんにお話を伺いました。

1978年、米国オハイオ州コロンバスでおきた小2の女の子のレイプ事件をきっかけにレイプ救援センターで開発改良され、今のCAPプログラムとなっています。「青い空」は1996年6月に発足し、2003年12月からCAPプログラムの他、女性向けセルフ・ディフェンス(護身術)やデートDV防止講座などを実施し活動を続けています。

プログラム自体子ども向けだと思われがちですが、先生や保護者の方が先に受けてから子ども達に受けてもらうと、より効果が望めるものになっています。

子ども同士のいじめもありますが、やはり子どもに対して暴力を行っているのはおとなです。例えば「子どものくせに」「子どもだから」という言葉で虚けられている現状を知られば、おとなが作っているこの社会の中で子どもの存在がそんなに扱われ、暴力にあいやすい状況であることがわかります。それゆえ、子ども視点で子どもをサポートできる環境を培うことが大切です。

子どもが自分には食べる・寝るなど生きるために必要な権利があり、その中でも特に大事なものは安心・自信・自由の権利で、それが侵害され嫌だと感じた時はそれを伝え、おとなにサポートしてもらうことも必要です。子ども自身が持っている力を十分に発揮すれば、自分で自分を守ることもできます。私たちが



せつこ 西村説子さん
NPO法人青い空-子ども・人権・非暴力副代表理事、NPO法人CAPセンター JAPAN スペシャルニーズプログラムトレーナー・就学前プログラムトレーナー
http://www.npo-aisora.net/

ちは子どもの視点で物事をとらえ直すことを第一にしています。

子どもがやっていることはおとなのまねも多いので、おとながよいモデルになることが大切です。子どもにはおとながどのように見え、感じているのかをくみとり、子どもへの毎日の声かけを変えれば、子どもの友達に対する声かけも変わってくると思います。

一番大事なことは、子ども達一人ひとりがかけがえない大切な存在であると認識することです。そうすれば、相手も大事にすると思います。また、お互いに相手を尊重し、何でも言える関係が理想です。夫婦間でもそのような関係を築いていければいいですね。それを子どもも見えていますから。

【取材・文 杉田真奈美】

※1 CAP(キャップ) Child Assault Preventionの略称で「おとなへの暴力防止」の意味。子どもが「いじめ・誘拐・性暴力」といったさまざまな暴力から自分を守るための暴力防止プログラム。全国に支部があり、地域で活動している。CAPでは「おとな」表記。「大人」表記せず、おとなの力を強化する言葉にかなわないので、少しでもおとなの力を強化する意味で「おとな」表記。

column vol.11

信頼しあえる関係づくりの大切さを伝えよう

「DVは誰にでも起こる可能性がある」というのは、男女の心理に詳しい心理カウンセラーの林恭弘さん。DVはなぜ起こるのか、その状態を改善するため、私たちは何を意識する必要があるのかを林さんに伺いました。

赤ちゃんはお腹が空いたり、おむつが濡れて気持ち悪い時など、泣いて不快(＝怒り)を表し、母親を動かそうとします。そうした経験から、ほとんどの人が怒りを示すことで、相手をコントロールするシステムを身につけてしまいます。もちろん、多くの人は成長の過程で相手を尊重することを学びながら感情のバランスを取れるようになっていきます。

それでも残念ながら、このシステムはさまざまなので使われています。親が子どもを怒るのは、その行為によって子どもの行動を促せるからです。それが加速すると、暴力を使って子どもを動かそうとする親も出てきます。DVもパートナーをコントロールしたいという無意識の表れと言ったことができます。

DVは連鎖する傾向があります。子どもは大人の在り方を親から学ぶため(男なら父親、女なら母親)、家庭内でDVが行われていると、頭では嫌だと思っても、無意識のうちに同じような関係を築けるパートナーを選んでしまいます。それが人の心理であり、デートDVや新たなDVの始まりになるのです。

さらに、過去の日本では、夫の立場が妻より上という時代がありました。その姿を見て育った男の子は、夫となった自分が家族に行っている行為がDVだと気づかないケースも多いようです。日本で男性の加害者が多いのは、そうした背景があるということも忘れてはいけません。

デートDVは相手の時間や行動の制限から



たかひろ 林恭弘さん
ビジネス心理・サルテック代表取締役、心理カウンセラー。ビジネス心理から幼児教育などの教育分野まで幅広い心理に詳しく。著書「しあわせ夫婦になる心」が近頃ベストセラー。(総合法出版) 代表取締役
http://www.business-shinri.com/

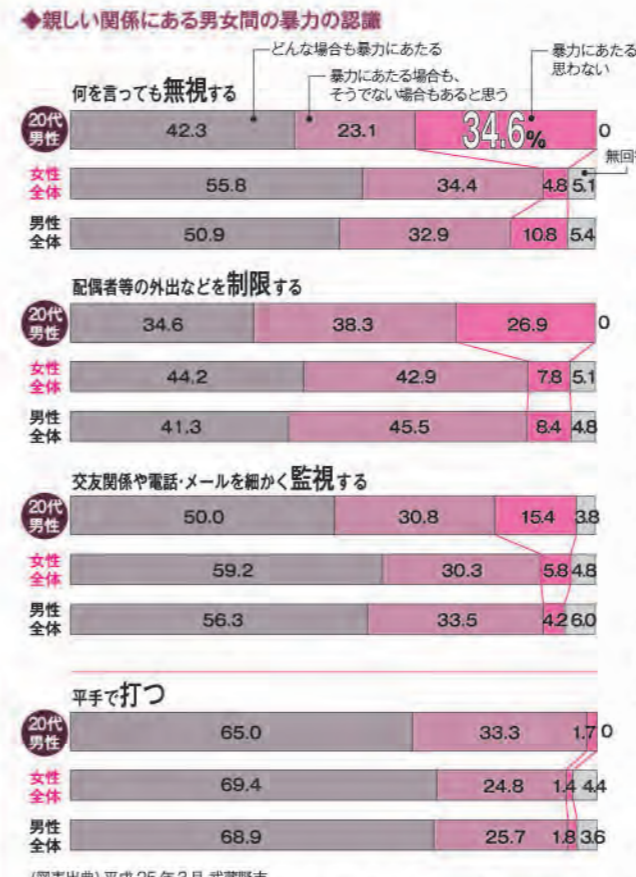
始まりです。問題なのは、これらの制限の始まりは主に嫉妬が原因であるという点です。嫉妬のない恋愛はないので、相手の行動に制限を加えるのも、「愛しているから」というとらえ方もできるのです。

それでもいつまでも相手との関係に自信が持てないと、その制限がエスカレートしていきます。それを防ぐには、相手と信頼関係を築くしかありません。「何があっても自分たちの関係は大丈夫」と思えることができれば、制限や暴力は不要になります。

良いパートナーシップはしっかりとした信頼関係の上に築かれます。私たち大人は子どもの前で人を非難することは避け、他人を尊重し、より良い人間関係を築く大切さを伝えていく責任があります。家庭だけでなく、学校、社会の意識を変えていく必要があると感じています。

【取材・文 詩水淳子】

これって何の数字?
34.6%



「何を言っても無視する」という行為が「暴力にあたると思わない」と答えた市の20代男性の割合です。

左記の数字は、平成25年3月に市で実施された「男女共同参画に関する意識調査」の、親しい関係にある男女間の暴力の認識を問う設問で、「何を言っても無視する」という行為が「暴力にあたると思わない」と答えた20代男性の割合です。他にも「配偶者等の外出などを制限する」「交友関係や電話・メールを細かく監視する」行為が暴力にあたらないと考える割合が、それぞれ26.9%、15.4%と、他の年代・性別に比べ高い値を示しています。

この調査では、相手を殴ったり性的な行為を強要することは暴力と認識しているとわかる数値を示しているものの、その行為自体が直接相手の身体に害を及ぼさない行為は暴力とは認識されにくく、無意識のうちにやられる可能性を示唆しています。特に、今号でも取り上げたデートDVの加害者となる年代でもある20代の若い男性にその傾向があることが気になります。

暴力には、相手の身体に直接害を及ぼす行為だけでなく、それによって心を深く傷つける行為があるという事実を改めて知ること、そして、性別・年代に関係なくパートナーとのより良い関係を築き、豊かな生活を送ることができるよう、日々心がけることが大切です。

【文 関口直子】

「まなこ」サポーターの200字コラム

まずは自分を好きになってから恋を始めてほしい
鬼頭麻佐 ● 吉祥寺南町

女子は母性から、相手につくることが愛だと信じてしまっているのではないのでしょうか。たとえ機嫌を強いられなくても、喜びに感じる気持ち。個人的にはとてもよく理解できます。でも対等な関係を築くには自分大切にすることを忘れてはいけません。その事に気づかせてくれるパートナーなら理想的。恋話(こいばなし)知らずの娘には、「まずは自分を好きになってから」とアドバイスしたいですね。娘が自分を見失いそうになった時、いつでも相談できる母でいたいものです。

良好な人間関係の築き方について
名久井梨香 ● 吉祥寺南町

「若者の恋愛離れ」が叫ばれていますが、ある調査によると、20代未婚の男性約22%、女性約42%が、恋人がいる、と回答しており、裏を返せば半数以上が、恋人がいない状況です。そういった中、デートDVについて教えるだけでなく、「人の愛し方」「良好な人間関係の築き方」を教えるいかなければならないと思います。教える側の大人も、それができているかどうかを振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

DVがなくなる日
平川みのり ● 吉祥寺北町

それまではドラマの中の出来事だと思っていたDVが、身体的暴力以外にも存在していること知り、自分も一歩間違えたら加害者になりかねない状況もあるのだと痛感。人権尊重。目に見えないものは気づくのがとても難しい。それでも一人ひとりの人が日々心に刻んでいけば、DVもなくなる日があるのではと心から願う。遠い空の向こうでは17歳の少女が暴力に屈せず人権尊重を訴えている。本当の強さを私も欲しい。

もしDVにあっているなら…相談窓口をご案内します(相談は無料です)

- 警視庁総合相談センター 03-3501-0110 (祝日・年末年始を除く月～金曜 8:30～17:15)
- 【配偶者暴力相談支援センター】
- 東京ウィメンズプラザ 03-5467-2455 (年末年始を除く毎日9:00～21:00)
- 東京ウィメンズプラザ(男性のための悩み相談) 03-3400-5313 (祝日・年末年始を除く月・水曜17:00～20:00)
- 東京都女性相談センター多摩支所 042-522-4232 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～16:00)
- 東京都女性相談センター 03-5261-3110 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～20:00)
- 警察(事件発生時) 110番
- 東京都女性相談センター 03-5261-3911 (夜間・休日のみ)
- 武蔵野市役所 女性総合相談 専門の女性相談員が対応します。予約制 第2木・第4火(相談時間50分) 予約専用 0422-60-1921
- 武蔵野市役所 ひとり親・女性相談 0422-60-1850 (祝日・年末年始を除く月～金曜9:00～17:00)

「まなこ」は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女共同参画の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

平成26年度『まなこ』第3回サポーター会議 92号「多様な性を考える」を読んで

■非常に難しいテーマをさまざま切り口でとらえられていて、読みやすかったです。特に市の教育委員会の記事からは、現状にまだまだ対応しきれてるとは言えないが、課題として認識している、という点がわかっただけでも意義があると思った。(40代女性)

■表紙のイラスト、考えている人の髪の毛が描かれていないが、男性、女性に見えるような髪型にしても今回の特集に見えただけではない、ということに合っていた気がする。(30代女性)

■寄稿文は学術的な話で難しく感じた。文章の内容を表や絵で表せれば、もっとわかりやすかったのでは。文中の「マジヨリテイがゆさぶられる経験」という言葉はとてもインパクトがあった。(20代女性)

■ジェンダー学を学ぶ機会があったので、今回のテーマは自分としては受け入れやすかった。子をもつ立場から、これからの社会は性について決めつけずに、「男だから」「女だから」という考え方を親から変えていかなければと思った。(30代女性)

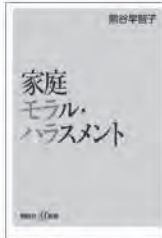
■座談会は当事者の生の声としてとても読みやすく、「3年B組金八先生」を見ていたので親近感を覚えた。P3の表はわかりやすかった。(20代女性)
その他今後取り上げて欲しいテーマなどについて活発な意見をいただきました。



12月11日(木) 市役所にて

BOOKS★ 貸し出しています！

むさしのヒューマン・ネットワークセンターの蔵書から



「モラル・ハラスメント」とは、いわゆる精神的な暴力、嫌がらせのこと。本書は、著者が実際に家庭内で経験したモラル・ハラスメントの具体的な事例を次々に示し、夫の暴挙に敢然と立ち向かったその闘いの記録である。読み進めるほどに家庭内で密かに行われているモラル・ハラスメントの実態が明らかとなり、その具体的な内容からモラル・ハラスメントの本質を知ることができる。夫の言動に疑問を感じ、モラル・ハラスメントの存在を初めて知った著者がそれに屈せず脱却への道を突き進む姿に、同じ悩みを抱える者は共感し次への一歩を踏み出す勇気を得るだろう。[文 関口直子]

むさしのヒューマン・ネットワークセンターは、男女共同参画社会を実現するための推進拠点施設です
武蔵野市緑2-10-27 武蔵野市政センター2階 TEL: FAX 0422-37-3410
E-mail mhnc@tokyo.email.ne.jp URL http://www.mhnc.jp/

ご存知ですか？

「むさしのヒューマン・ネットワークセンター」

武蔵野市立第一中学校生徒さん、6人が来所



平成26年12月17日(水)総合学習の一環として、6人の生徒さんが当センターを訪問されました。テーマは「ワーキングマザー」。女性の就労状況や育児休業法、男性の家事育児参加などのワーク・ライフ・バランスについて、さまざまなデータを通して日本の働くお母さんを取りまく実情を共有しました。

▶講座の詳細・お申し込みは市報やセンターのホームページをご覧ください！
<http://www.mhnc.jp/>

INFORMATION 市民活動推進課 男女共同参画担当から

◎平成27年度男女共同参画推進団体の登録・更新について

女性の学びや社会進出の支援など、男女共同参画の推進を目指す活動をしている市内団体を「男女共同参画推進団体」として登録しています。登録団体は、団体が行う男女共同参画社会実現のための講演会等の講師料等の補助やむさしのヒューマン・ネットワークセンターの会議室の利用及び印刷機使用料の半額免除などの支援が受けられます。

詳しくは下記担当へお問い合わせください。

◎市民とつくる男女共同参画情報誌「まなこ」サポーター募集

家庭、地域、社会、労働の場などで男性・女性が共に抱えている問題について関心がある方、活動している方で『まなこ』のサポーターをやっていただけの方(ボランティア)を募集します。

主な活動：①年4回程度のサポーター会議出席(託児有、3ヵ月以上から就学前まで) ②各号のテーマに関する意見や感想などの提供 ③これから発行する『まなこ』の企画や取材先の提案など

募 集：市内在住・在勤・在学の方。10名程度(超えた場合は調整あり)。任期は1年間(平成28年3月31日まで)。

申込み：Eメール・はがき・FAXで

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④私の興味ある『まなこ』のテーマ(100字程度) ⑤(活動団体があれば)所属団体名を記入し、市民活動推進課男女共同参画担当まで。

締め切り：3月31日(火)必着

市民部市民活動推進課 男女共同参画担当
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28

TEL 0422-60-1869 FAX 0422-51-2000

E-mail SEC-KATSUDOU@city.musashino.lg.jp

URL <http://www.city.musashino.lg.jp>

* STAFF *

サポーター 赤崎江里 菊池由起 鬼頭麻佐
名久井梨香 平川みのり
取材・編集 詩水淳子 杉田真奈美 関口直子 友野その子
丸山麻帆 矢後麻美 市男女共同参画担当職員
編集協力 栗原 毅
表紙・イラスト ふじわりらわ
デザイン 上田ジュンコ
印刷 プリンティングイン株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、市内の医療機関、美理容院、大型店舗、金融機関、おふろ屋さんなど市内の約450か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、市民活動推進課男女共同参画担当まで。

◎織込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。27年度も『まなこ』を引き続き愛読ください。

悪意があるわけではないのに、多くの人が苦しんでいる。人の心理の深さに驚いた、皆が今より意識を高く持ち、連鎖を断ち切らなければいけない。(詩水淳子)
子どもやパートナーという関係を続けていくには、日々の努力と気遣いが大事だと実感。もっと自分を大切に、相手にもステキな言葉を投げかけていきたい。(杉田真奈美)
よりよいパートナーシップとは何か。夫との関係、子どもとの関係、友人との関係など、改めて見つめ直す良い機会になりました。(関口直子)
愛しているから束縛したい、という気持ち：自分は抱いてしまいがちな性格だと認識し、反省しました。娘にも友人にも対等でほしい距離感。(友野その子)
親しい間柄こそ、ひどい言葉や態度が相手の自尊感情を奪ってしまう。怖いことです。再度自身を見直し、せつかなら周囲を元気に、しあわせにしていける言葉や行動を選んでいきたいです。(丸山麻帆)
パートナーシップ——いつどんな時でも大切な心のあり様。社会全体で育んでいかなければと思います。(矢後麻美)